

自動車安全技術開発支援事業について

1 目的

近年、自動車メーカーや大規模な自動車部品メーカーを中心に自動車安全に寄与する製品の開発・販売が行われ、市場が形成されつつあるが、中小企業の参入は一部にとどまっている。そこで、県内大学を中心に有力な技術シーズを紹介し、主に本県の中小企業に対して自動車安全に寄与する製品開発の取組を促すとともに、研究者・技術者のネットワーク形成を図ることにより、オールあいちでの研究開発の取組を促進する。

2 取組

(1) セミナーの開催

自動車安全技術関連の製品化・事業化に成功している企業の事例や大学の技術シーズを紹介するセミナーを開催した。



○参加者のべ152名
(内訳)
企業96名、大学29名、その他27名

第1回 (H26.7.4)	愛知県産業労働部産業科学技術課 自動車安全技術の動向と中小企業による取組に向けて (株)デルタソーリング 常務取締役 藤田 悦則氏 眠くなるのが数分前にわかる技術 – 入眠予兆現象の発見–
第2回 (H26.8.9)	中部大学 教授 平田 豊氏 眼球運動による居眠り予兆検知技術とスマートフォンアプリへの実装 名古屋工業大学 教授 佐藤 淳氏 画像情報処理技術の自動車事故抑止への応用
第3回 (H26.11.28)	愛知工科大学 教授 宇野新太郎氏、准教授 荒川俊也氏 近距離無線を用いた交差点安全支援 ドライバ状態推定による安全運転支援 他3テーマ
第4回 (H27.8.4)	名城大学教授 山田 宗男氏 高齢ドライバーの運転特性計測・評価と運転支援 愛知淑徳大学准教授 國分 三輝氏 高齢ドライバーのメタ認知と運転支援・教育
第5回 (H28.3.4)	名古屋大学教授 村瀬 洋氏 自動車運転支援のための歩行者等の周囲環境認識 豊橋技術科学大学 教授 章 忠氏 交通予防安全のためのドライバ運転状態計測の現状と課題

(2) 研究者情報のリスト化及び公表

県内大学で自動車安全技術や交通事故抑止に関する研究を行っている研究者のリスト(13大学65名)を作成し、県のWebサイトで公開した。

<http://www.pref.aichi.jp/san-kagi/kagaku/jidosha/researcher.html>

(3) 研究会の開催

自動車安全技術プロジェクトチームやセミナー参加者等のネットワークを活用し、自動車安全技術に関する課題の検討、関連情報の収集及び共同研究開発の検討等を行うため研究会を開催した。

“道(未知)”の安全・安心・管理技術開発研究会 (H28.2.14 H28.3.19)

- 座長: 愛知県立大学情報学部 教授 小栗 宏次氏
- 概要: 世界で一番安全で安心なモビリティ社会を構築するため、車両ではなく、道路(交差点)を主眼に、最新の情報通信技術を駆使した安全・安心・管理技術の開発について議論。
- 検討内容:
 - ・道路インフラメンテナンス費用最適化技術(白線等道路状況の常時管理技術開発)
 - ・路面情報収集技術の開発(次世代ドライブレコーダ等)
 - ・次世代道路標示技術の開発(白線コード化、逆走防止指向性ライン)
 - ・インテリジェント交差点の構築(情報表示デジタルサイネージ、人流計測システム)
- 研究会メンバー: 2大学、1研究機関、9企業 計21名

ドライバ状態モニタのための眼球運動解釈研究会 (H28.2.12 H28.3.29(予定))

- 座長: 中部大学工学部 教授 平田 豊氏
- 概要: 自動車運転中に生じる眼球運動とドライバ状態(低覚醒、不注意・漫然、道路状況誤認知など)の関係を明らかにし、眼球運動からドライバ状態を推定するための技術について議論。
- 検討内容:
 - ・自動車運転中に生じ得る眼球運動と代表的なドライバ状態の関係の解明
 - ・眼球運動並びに関連する生体信号を計測するためのハードウェア・ソフトウェア技術の開発
 - ・ドライビングシミュレータ又は実車を用いた評価
 - ・眼鏡型、スマートフォン対応型の眼球運動計測・解釈システムやワーニングシステムの開発
- 研究会メンバー: 6大学、2研究機関、7企業 計19名